

■ 本コースで使う主なテクニックと学習内容

■ 英語のロジックパターン

英語的な話の組み立ては、日本語的に背景から結論へと進む「話の組み立て」とは大きく異なります。この違いを分っていないと、何となく話がかみ合わない、話が伝わらない、意図を誤解される、といった「コミュニケーションのムダ」「コミュニケーションの行き違い」が生じます。英語の典型的な「話の組み立て(ロジックパターン)」を知り、実践的に慣れ、誠意を感じてもらえる話の組み立て方と、当然のこととして期待される情報量の感覚をつかんでもらいます。コミュニケーションに安心感が増し、コミュニケーションの効果もあがります。

■ 英語の丁寧表現

敬語の体系のない英語の世界でも、しっかりと「社会人の言葉遣い」が存在します。日本語のような定型的な敬語の体系のない「英語」で、文や表現のどういうところを工夫して「相手に配慮した大人の話し方」にしているのか、そのポイントと、具体的な表現を学びます。日本語発想を英語に直して、まったく意図せぬトーンになってしまっている「落とし穴」の表現も取り上げて、適切な表現が使えるようになります。

■ 英語発想の文のつくり方

ネイティブがよく使う英語らしい「簡単な文」の多くが、日本語の発想ではなかなか作りにくいのはなぜなのでしょう。ちょっとした文の作り方の視点とコツを知ることで、have、give、make、などの単語を上手に使って文をつくったり、「もの」を主語にした文で上手にものを頼んだりといったことができるようになります。

■ リーダーシップを感じさせる話し方

英語圏の文化において、リーダーシップを感じさせる話し方として、いくつかのポイントがあります。表現だけの問題を超えて、同じ事を伝えるにも少し視点や発想を変えて「加点式未来志向」のかたちで目指すべき方向にフォーカスした説明をしたり、比較級を上手に使うことで前向きに話すなど、英語文化の美意識にもかかわる感覚を垣間見ることができます。「意図を明確に伝える」ことをリーダーの資質として重視する一方で、こうした前向きな話し方でやる気を引き出す話し方ができる力も非常に重視されます。そうした話し方ができるようになるためのポイントと具体的な表現を紹介します。